

たつみ都志先生が語る「猫と文学」



6月19日市民公開講座、たつみ都志先生の「猫と文学」が開催されました。猫小説と聞いてまず思い浮かべるのは、夏目漱石の「吾輩はねこである」でしょうね。

猫に比べて犬は人間に対して非常に従順ですから余計に「猫」の自由奔放さが目につき小説家が好むのはこの「自由奔放さ」なんでしょうね。

さて、今回は有川浩（ありかわ・ひろ）さんの原作「旅猫リポート」です。今年の10月に福士蒼汰さん主演の映画で見ることができるようです。

心優しい青年・サトルがある事情から飼えなくなった愛猫ナナと一緒に、新しい飼い主を探して日本各地を巡る様子を描いた物語で、幼少期の友達や初恋の相手などを訪ね歩きます。

その時伝えられなかった気持ちや知られざる過去と秘密も明らかになっていくという展開です。あとのストーリーはご自分でお楽しみください。



ところで、今回の講座もそうなのですが、たつみ先生はワンペーパーを配布して物語の展開を説明してくれます。

そのおかげで、講座修了後振り返りができるのですね。

「家族って何だろう!」「親子って何!」などこの物語のストーリーの中であとからじっくりと考えさせられる仕掛けを感じます。

小説家有川浩さんはたぶんライトノベルの第一人者ではないでしょうか。

漫画のようにテンポが早く、くどくない。それでも泣けてきたりして感情移入しやすいのもライトノベルの特色ですね。

さて、生き物である限り人も猫やペットも別れの時が必ず来ます。

皆さんはその時かわいいペット、愛すべきものに対してどのような「愛情行為」をなさいますか。秋のロードショーが楽しみです。

